

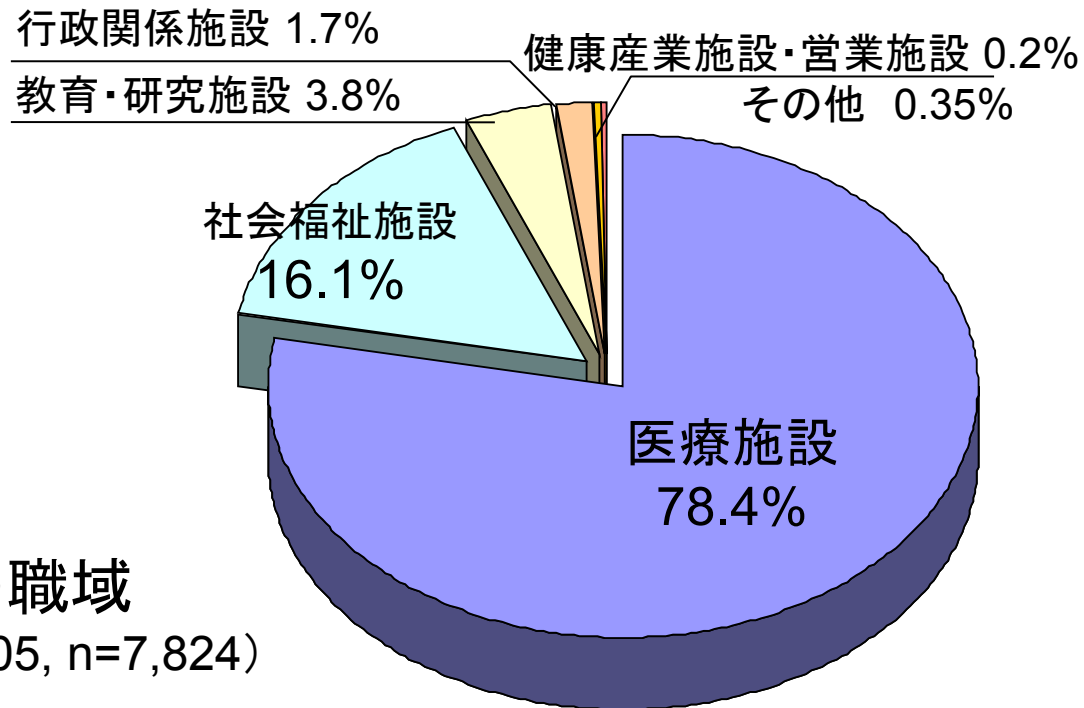
地域理学療法学講義に対する 協同学習(バズ学習)導入の検討

国際医療福祉大学保健医療学部理学療法学科

下井俊典

背景

- ◎ 従来の講義法による一斉講義（マスプロ講義）形式の問題点と対策
- ◎ セラピストの教育課程における地域理学療法に対する理解度の向上、職域の拡大



理学療法士の職域
(理学療法白書2005, n=7,824)

目的

① 学生の能動的受講態度への試み

① PBL; problem based learning

① 協同学習

② 協同学習による

① 講義前後の地域リハビリテーションに対する
イメージ・興味・勤務希望の変化

① 「態度的目標」

に関してアンケート調査を実施

協同学習(バズ学習)

◎ 目的

◎ 学習目標

◎ 態度的目標

- ◎ 能動的受講態度

- ◎ ディスカッションを通じた望ましい人間関係

◎ 学習過程

- ◎ step 1: 学習課題の構成と提示

- ◎ step 2: 課題への取り組み

6名程度のグループ内・間の情報交換
(ディスカッション)による課題への取り組み

- ◎ step 3: 評価(フィードバック)

課題への取り組みに対する援助と指導

方法

◎ 対象

- ◎ 大学理学療法学科の3年生103名

◎ 講義の内容

- ◎ 地域理学療法講義(全7回)

◎ 一斉講義と協同学習

- ◎ 課題数:1~2題/1限
- ◎ 5~7名のグループで5~10分間ディスカッション
- ◎ ディスカッション内容をメモさせ、講義時間内・次回講義にて評価(フィードバック)

課題の内容

- ① 「高齢者に対する訪問リハビリテーションと、小児に対する訪問リハビリテーションの違いは何か」
- ② 「『個別(介入・リハビリテーション)』に比べた『集団(介入・リハビリテーション)』の特徴は何か」
- ③ 「介護保険制度と医療保険制度の違いから、介護保険制度の特徴を明らかにしなさい」
- ④ 「諸外国の介護保険制度と比較して、日本の介護保険制度の特徴(長所, 短所)を明らかにしなさい」
- ⑤ 「医学的リハビリテーションと予防医学としてのリハビリテーションとの違いを考えなさい」
- ⑥ 「CBRにおける理学療法士の役割期待について考えてみる」

ディスカッションの様子



ディスカッション内容のメモの一例

個別の特徴

- 1人の患者さんに対して、じっくりリハビリできる。(×時間がとれない)
× 1日に訪れる患者さん数が少ない
- 自身のペースでリハビリできる。
- 体調管理がしやすい。

集団の特徴

- にぎやがにむき。△ サボれ子。
- 手とりはいい。
- × 断のペースでリハビリできない。
- 楽みの要素が強い。精神的に張り合いがある。
(競争心が生れ子)
- × 人の好き嫌いに左右され子。(→患者さんどうしてけんかしたりする)
- × 無理しがち(→他人に影響されすぎて過度にリハビリあり。)
- × 1人1人の介入量が少ない
- × どうしても機能レベルの低い人に合わせてしまう。

○ - メリット

× - デメリット

アンケート調査

① 調査方法

- ② 計7回の講義前後にて記名自記式アンケート

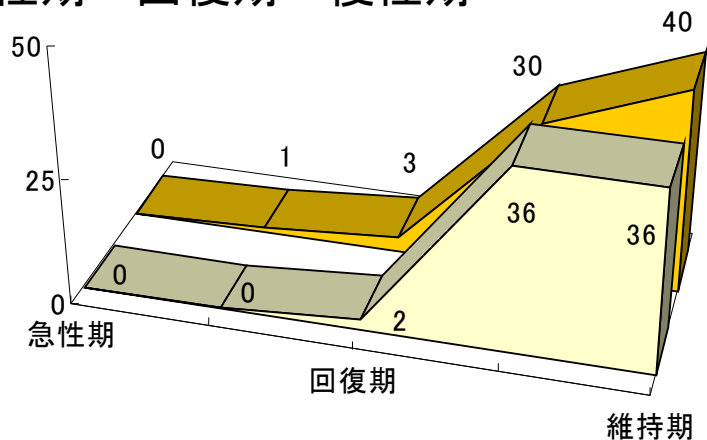
① アンケート内容

- ② 地域リハビリテーションに対するイメージ・興味
- ② 勤務希望地
- ② 自由記載
- ② 協同学習の態度的目標に関する評価（計12項目、5段階の評定尺度法）
 - ③ 学習の動機付け
 - ③ 学習方法の理解度
 - ③ ディスカッションによる情報交換について

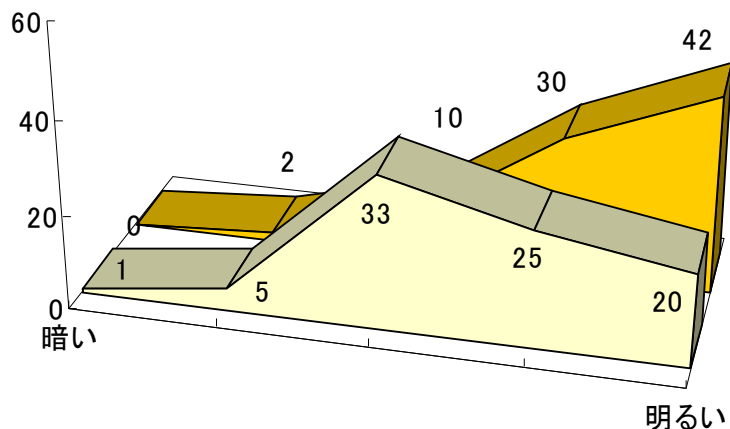
地域リハビリテーションに対するイメージについて

***: $p < 0.001$ with Wilcoxon signed rank test

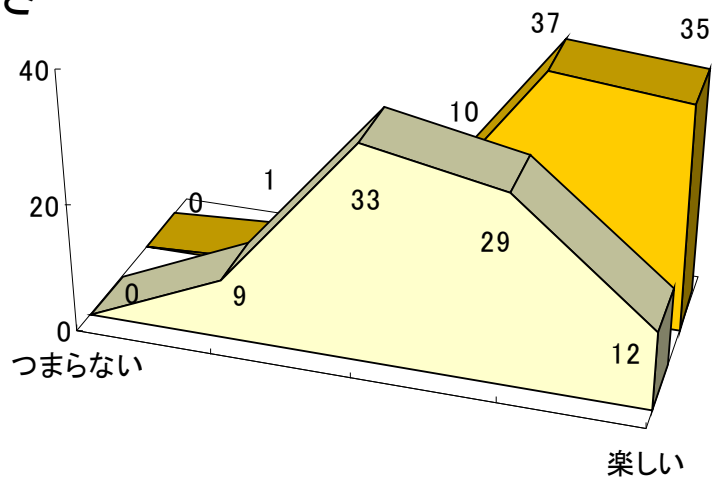
急性期—回復期—慢性期



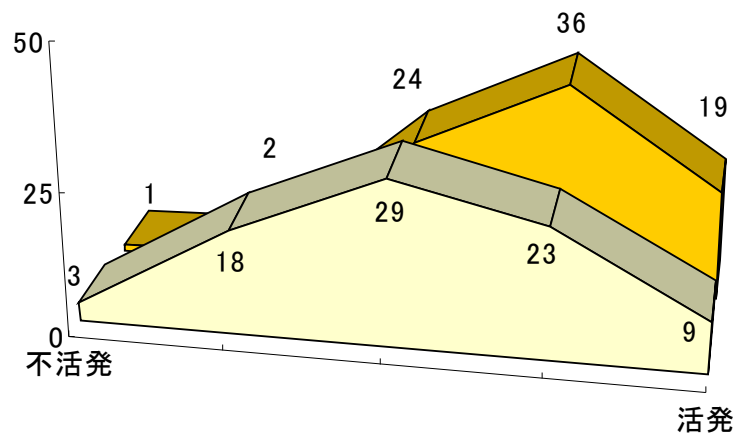
明るさ***



楽しさ***

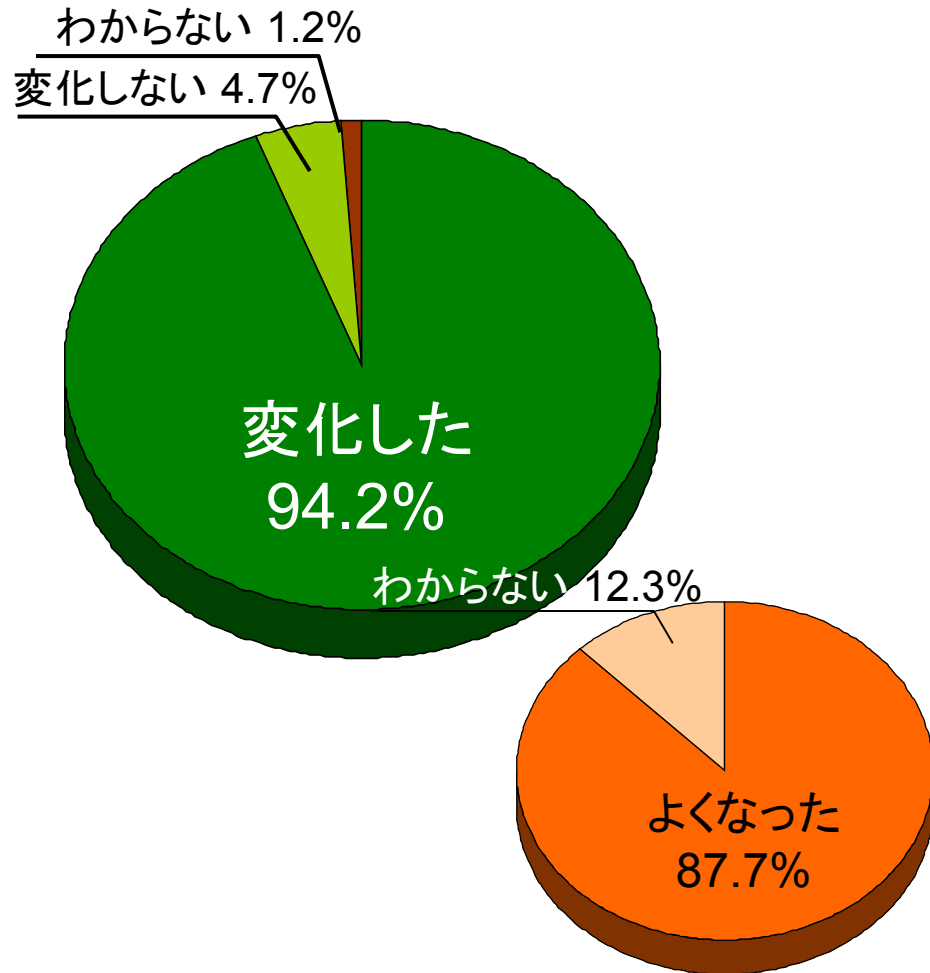


活発さ***

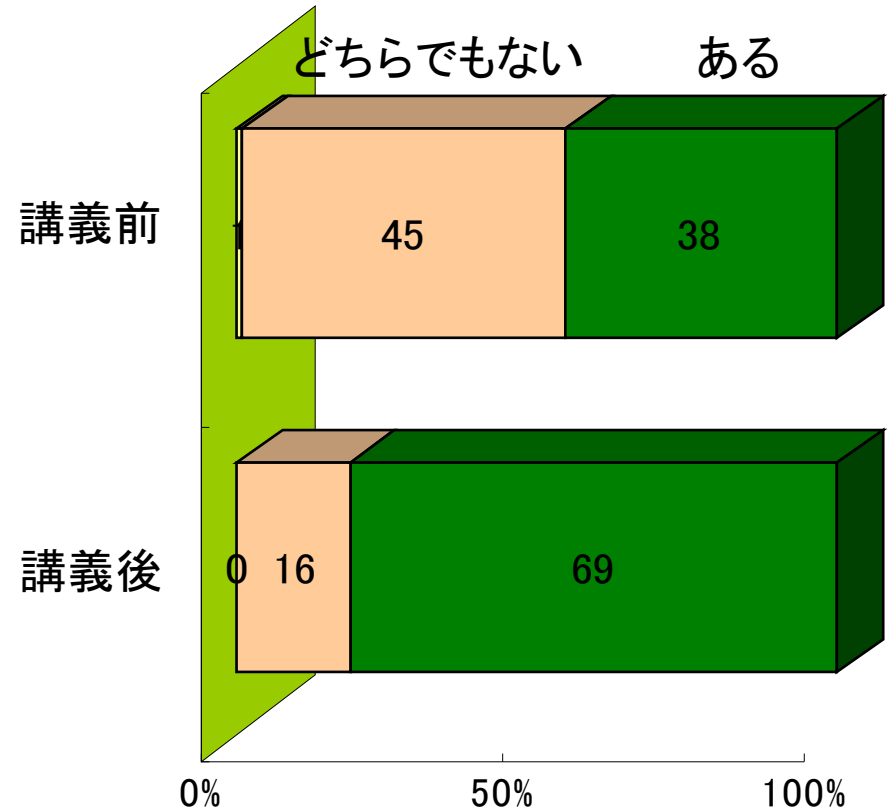


地域リハビリテーションに対する イメージ・興味の変化

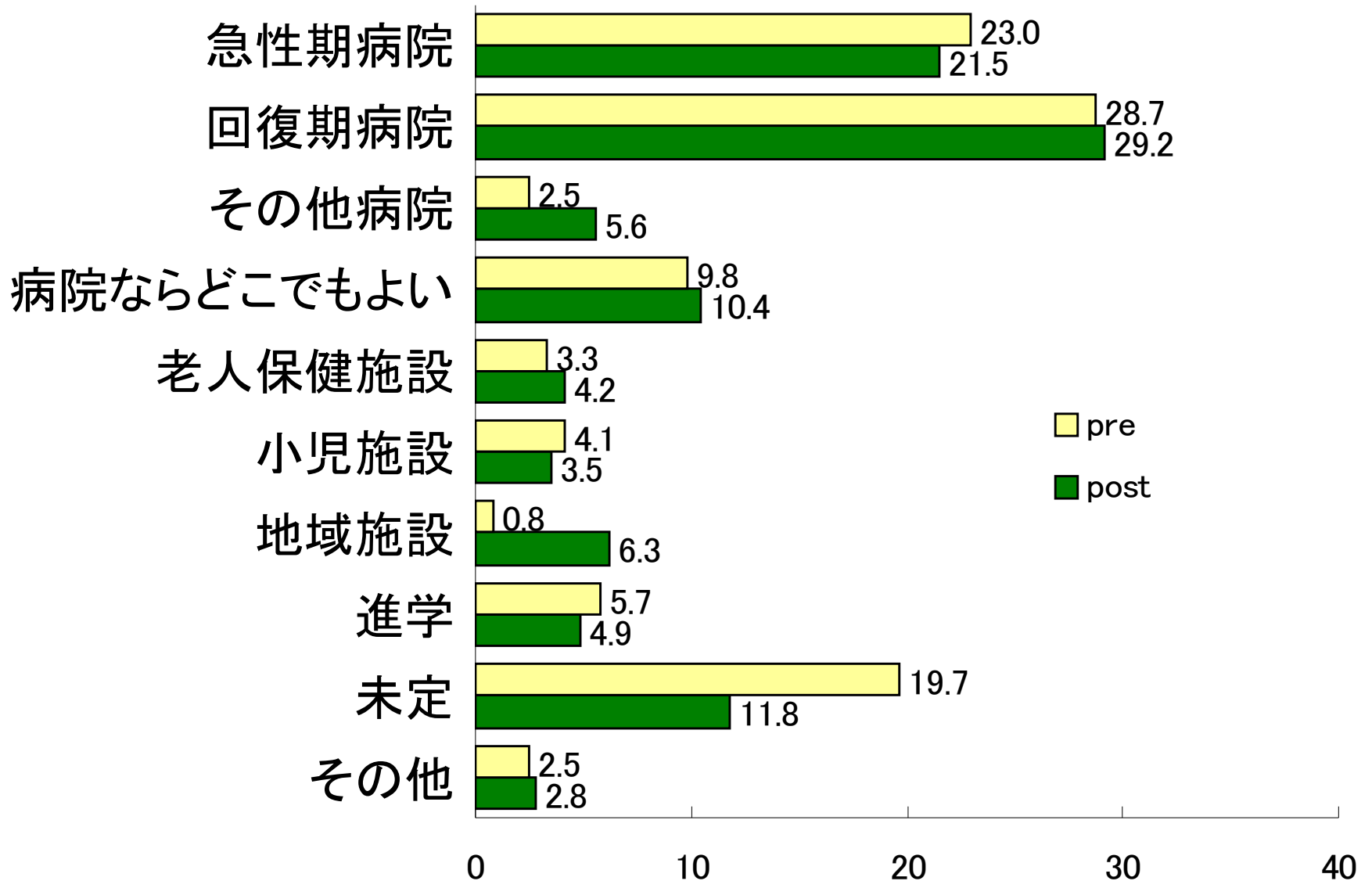
イメージの変化



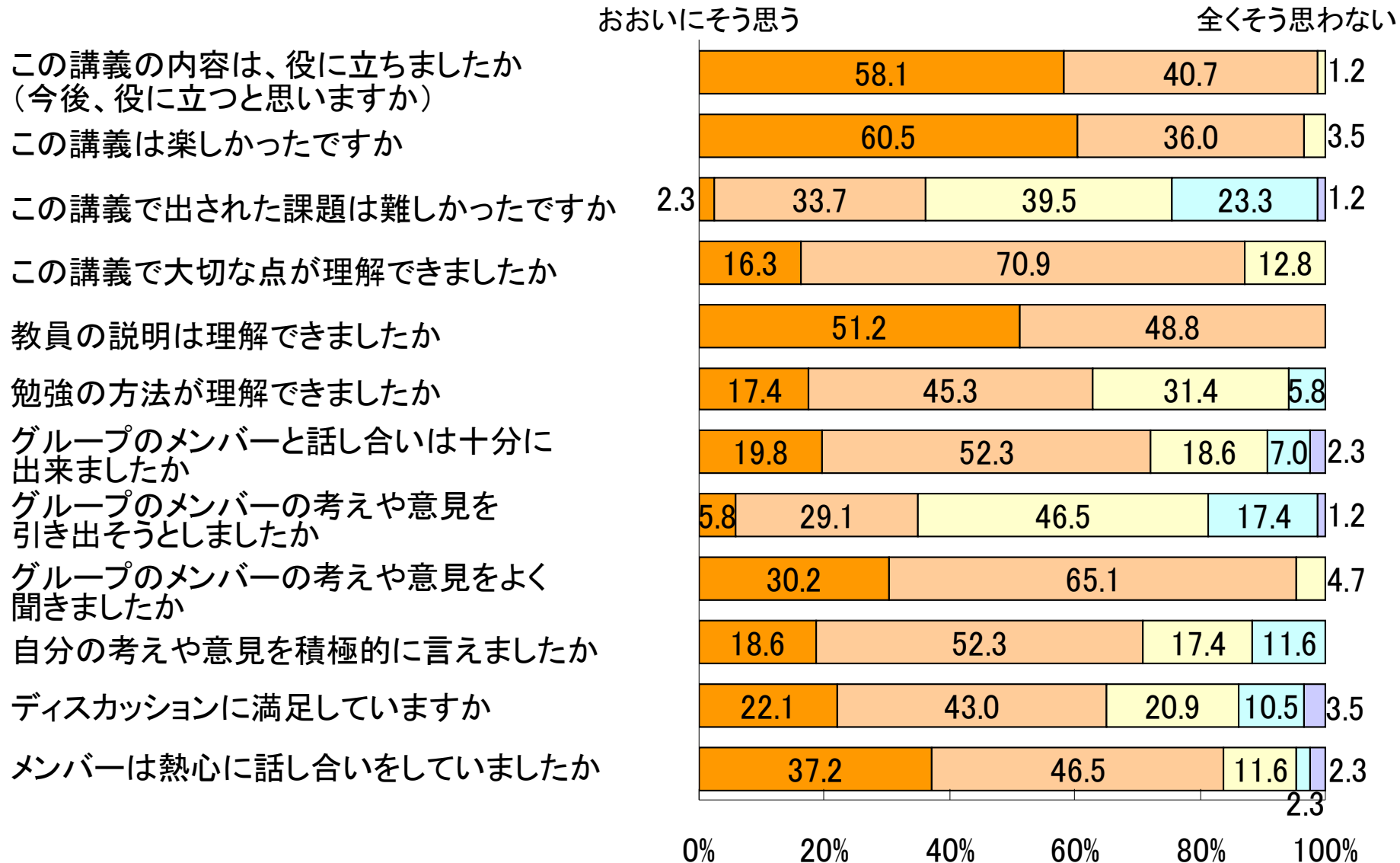
興味の変化



勤務希望地



協同学習の態度的目標に関する評価



講義の進め方に関する アンケート調査結果

- ① ディスカッションに関する意見
 - ① 内容
 - ② 問題点・難しさ
 - ③ 具体的な手順・方法
 - ④ その他(漠然とした評価)
- ② その他の講義内容・手順に関する意見

ディスカッションの内容に関する意見

- ◎ 他人の意見を聞ける(28名)
- ◎ 自分の意見を整理・深めることができる(7名)
 - ◎ 「考える授業が好き」(1名)

ディスカッションの問題点、 難しさに関する意見(9名)

- ◎ 自分の意見が(あまり)言えなかった(2名)
- ◎ 討論ができなかった(1名)
- ◎ 意見をまとめるまでは難しかった(1名)
- ◎ 相手の意見を引き出したり、質問ができなかった(1名)

ディスカッションの 具体的な手順に関する意見

- ① 人数(少人数)が適切(4名)
- ② メンバー構成(2名)
- ③ 時間(6名)
 - ④ 「ある程度区切られた時間の中で決められた課題について効率良く話し合うことは、とっても大切なことだと思う」
- ⑤ 教員-学生間のやりとり(4名)
 - ⑥ 「ディスカッション内容へのフィードバックもあったので、良かった」
 - ⑦ 「先生自身の意見としては、こんなことがあるよ! というのを呈示してくれたらもっと理解が深まると思った」

考察

- ◎ 講義後の「地域リハビリテーション」について
 - ◎ 「明るさ」「楽しさ」「活発さ」のイメージは良好となった
 - ◎ 地域リハビリテーションに対する興味・勤務希望を賦活
 - ◎ 但し、協同学習の効果とは断定できない
- ◎ 協同学習の態度的目標
 - ◎ 学生はディスカッションを肯定的に評価し、その難しさ、問題点について考察
 - ◎ 他のメンバーの意見は聴けたが、意見を引き出すまでには至らなかった
 - ◎ グループ内での発言のしにくさから、協同学習に対する充実度や満足度が低くなる可能性

協同学習を展開する上での課題

- ① 適切な問い(課題)により、情報の「取り出し」「解釈」「熟考・評価」
 - ② 「適切な問い(課題)」とは？
 - ③ ZPD (Zone of Proximal Development: 最近接発達領域、ビゴツキー L.S.)
- ④ 個人の評価が困難
- ⑤ 講義の進行スピード
- ⑥ 環境依存性